

第449号 1月号 2022.1.20

岐阜県



# 商店街だより



発行元：岐阜県商店街振興組合連合会 岐阜市藪田南 5-14-53 TEL：058-277-1107



## 謹賀新年



岐阜県商店街振興組合連合会 理事長 日比野 豊

新年明けましておめでとうございます。令和4年、新春を迎え謹んでお慶び申し上げます。

旧年中は、岐阜県商店街振興組合連合会事業の各般にわたりまして、格別の御支援御協力を賜り、誠に有難うございました。心より厚く御礼申し上げます。

さて、去年は、東京オリンピック・パラリンピックの開催の是非に揺れましたが、史上初の大会延期、コロナ禍での開催というかつてない形で無事に大会が開催されました。日本全国において、「コロナに負けない」という勇気と希望が湧くような日本選手団の活躍に魅了された記念すべき大会となりました。一方で、昨秋の新型コロナウイルス感染症第5波では、岐阜県でも感染力の強いデルタ株が猛威を振るい、新規感染者数が連日300人規模で確認され、瞬間にステージ2からステージ4となり、過去最悪の感染者数となりました。8月からは緊急事態宣言が再発令され、県下の商店街では事業やイベントが中止となり、来街者も一気に激減致しました。また、当連合会の事業のほとんどが2年連続して延期となり、「岐阜県まちゼミフォーラム」も延期となりました。国の「各GoTo事業」も全国一斉停止となりました。9月には緊急事態宣言が解除され、商店街ではようやく、事業やイベントが再開されましたが、規模を縮小しての開催でコロナ禍前の賑わい回復にはまだまだ時間がかかると思われまます。11月からは「岐阜

県GoToEat事業」も再開され、飲食店を中心に徐々に人出は増えてきています。また、「GoTo商店街事業」について、今後事業内容を一部見直し、名称を「がんばろう！商店街事業」として実施予定であることが公開されました。そんな中、当連合会では、クラウドファンディング事業「岐阜県の商店街をクラウドファンディングで応援しよう！」を、令和3年10月よりスタートさせ、令和4年1月まで実施致します。県下の商店街への支援を、県民の皆さまからクラウドファンディングという形で募り、プレミアム商品券を返礼し、その商品券を利用させていただくことで、感染症拡大により落ち込んだ商店街の消費回復を図ると共に、商店街と支援者とを繋ぎ、本事業終了後も持続的な賑わい創出に繋げることを目的と致しました。県民の皆さまの暖かい支援のおかげで約1億2千万円もの支援が集まりました。一過性に終わることがないよう、今後も継続的に商店街の賑わいにつながるような事業を展開していけるよう邁進して参ります。

終わりに、昨年末ごろから海外で感染拡大している新変異株「オミクロン株」の行く末、第6波の到来が心配ではございますが、コロナ禍が1日も早く収束を迎え、組合員の皆様方にとって良い年となりますように心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶と致します。

# 商店街を彩るクリスマスディスプレイ 第34回ウィンドウディスプレイフェスタ

◆主催：高山市商店街振興組合連合会

12月1日から26日にわたって、9つある高山市の商店街で「第34回ウィンドウディスプレイフェスタ」が開催されました。雪がちらつく高山市で、商店街のショーウィンドウがクリスマスディスプレイで彩られ、商店街全体が心躍る雰囲気になりました。

今回参加した約60の店舗では、取り扱い商品を使ってディスプレイをするなど、それぞれ趣向を凝らして、ショーウィンドウをクリスマス仕様に飾っていました。商店街を訪れた人たちから、「きれいに飾られたショーウィンドウを見ると楽しい気分になります」「可愛く飾ってありますね」という声を聞くことも多いそうです。飾られたショーウィンドウに興味を引かれて立ち止まり、眺める人たちの様子を、商店街のあちらこちらで目にしました。

## ■ 企画を通してより華やかになる商店街

今回で34回目となる「ウィンドウディスプレイフェスタ」は、高山市商店街振興組合連合会(以下、「高山市商連」)の女性部「ストリート21」の企画により行われています。この企画は、商店街を彩ることで訪れる人たちの目を楽しませるとともに、各店舗のディスプレイスキルの向上を図ることも狙いとしているそうです。毎回、企画内容を女性部のメンバーで話し合い、コンテストを開催したり、ウィンドウディスプレイのプロの講師を招いて講習会を開催したりするなど、工夫を重ねながら続けています。女性部「ストリート21」のメンバーで高山市商連の副理事長を務める松葉早百合さんは、「ウィンドウディスプレイフェスタは、商店街の店舗がディスプレイに力を入れるきっかけになっています。多くの店舗が参加することで、商店街が華やかになるので、嬉しいです」とお話をいただきました。

## ■ 店内に入りたくなるディスプレイ

高山本町二丁目商店街に店を構える「白啓酒店」では、ワインやウィスキー等の商品とともに、グラスやクリスマス飾りを使った、クリスマスパーティーをイメージさせるディスプレイが印象的でした。大きなショーウィンドウに飾られた、人の背丈以上ある木のクリスマスオブジェは、自分たちで色を塗ったそうです。クリスマスディスプレイに引き付けられて店舗に入るお客様も多いそうで、ディスプレイの重要性和効果を感じました。



▲白啓酒店のクリスマスディスプレイ

## ■ 取扱商品を使った個性豊かなディスプレイ

高山本町三丁目商店街で生活用品を販売する「牛丸商店」では、三宝(さんぼう)を積み重ねて段を作った上に、サンタクロースや、ツリー、小さな雪だるまの置物が可愛らしく飾られていました。三宝とは、正月の鏡餅や、神に供える食べ物を置く台です。商品がうまく活かされたディスプレイは、自然と人目を引くようで、通りすがりの人たちから「かわいらしく飾ってありますね。この商品は何をするためのものですか」と尋ねられることもあるそうです。華やかなディスプレイが、商店街を歩き交う人たちの商品や店

舗に対する興味を引きつけるきっかけになっているようでした。



▲牛丸商店のクリスマスディスプレイ

## ■ ディスプレイ商品が人気商品に

食料品やギフトを扱う「大倉食料品店」は、クリスマス用のギフト商品とポインセチア等で、

ショーウィンドウを華やかに飾っていました。取材した12月25日までに、ディスプレイをしていたクリスマス商品が、ほとんど売り切れてしまったそうです。華やかなディスプレイは、商店街を歩き交う人たちの目を楽しませるだけでなく、飾られた商品を「欲しい」と思わせる効果があることを実感しました。



▲大倉食料品店のクリスマスディスプレイ

# 地域が待ち望んだ「恵那まちなか市」開催 第40回恵那まちなか市

◆主催：恵那まちなか市実行委員会

12月4日(土)、恵那駅前周辺エリア(西銀座通り)で「第40回恵那まちなか市(以下、「まちなか市」)」が開催されました。食べ物や飲み物などを販売する40以上の事業者が出店するとともに、大道芸やクラシックカーのパレード、ロボット競技等、様々な催し物が行われました。

まちなか市は2010年に始まって以来、恵那駅前の商店街の活性化を目的として、春・夏・秋・冬の年4回開催されています。版画体験や、ボウリング等、子どもたちが参加できる企画が多く盛り込まれているのが特徴です。今年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、春・夏・秋の開催が中止となったため、今回が初めての開催でした。

## ■ 地域が待ち望んだ「まちなか市」

当日は、午前中に少し雨がぱらつきましたが、約3,000人が来場し、賑わいを見せました。想像以上の売れ行きで、取材をした正午頃には、すでに商品が完売している店もあるほどでした。また、スタッフや出店者の方々から、「今年初の開催なので、待ち望んでいた地域の人たちがたくさん訪れてくれているのだと思います」という声を多く聞き、地域の人たちが待望したイベント開催であることが伝わってきました。

## ■ 中学生ボランティアが活躍

まちなか市では、「食べ歩きはしないでね」「食べ歩きは禁止です」というプラカードを持って、会場を回る中学生ボランティアスタッフが見られました。このような呼びかけの他、座って飲食ができる広いスペースを設けるなど、新型コロナウイルス感染症拡大の対策を徹底して開催さ

れていました。中学生ボランティアの呼びかけに応じて、来場者は飲食をする際、決められたスペースで黙食をするなど、ルールを守りながら楽しんでいる様子が見られました。

また、中学生ボランティアにインタビューしたところ、「まちなか市のボランティアに興味があり、自主的に参加しました。会場で沢山の方に会えて楽しいです」と話してくれました。商店街のイベントに参加する中で、運営側としての体験をしながら、たくさんの地域の方と出会うことが、商店街への親しみをを感じるきっかけになっているように思いました。



▲中学生ボランティアの皆さん

## ■ 出店者の声

西銀座通りの近くにある末広通りで精肉店を営む「肉の岩島屋」は、恵那市のブランド豚である「三浦豚」と、恵那市の特産品「細寒天」を使った、特製の肉まんを販売していました。三浦豚を使った肉まんは、とろけるような脂身や、柔か



▲肉まんを販売する肉の岩島屋 引字社長

く、コクと甘みのある豚肉の味わいを感じられる一品でした。この肉まんは、普段は店頭等で冷凍販売をしているため、温かい商品を販売するのは、まちなか市やイベント時のみだそうです。代表取締役の引字（ひきじ）善久さんは、「想像以上の売れ行きでうれしいです。久しぶりの開催だったので、お客様も多かったのではないのでしょうか」と話されました。

西銀座通りに店舗を構える「和菓子処菊水堂」は、創業以来100年以上にわたり事業を営む和菓子屋です。まちなか市には毎回参加するとともに、夏は水まんじゅうやかき氷、冬はぜんざいといった、季節に合わせた甘味を提供しています。まちなか市に来場した子どもたちが「おいしかったから、また食べたい」と、後日来店することもあるそうです。3代目女将である松井智子さんは、「前回のまちなか市は、コロナに負けるなという想いで、みんなで計画しましたが、開催を断念せざるを得ませんでした。今回やっと開催でき、本当にうれしいです」と話され、開催できた喜びを感じていらっしゃいました。



▲菊水堂 3代目女将の松井さん

## ■ 人とのつながりを感じた開催

今回のまちなか市は、今年初の開催であるとともに、様々な企画が盛り込まれました。キッチンカーの運営者や大道芸人たちは、コロナ禍で各地のイベント開催が中止になる中、営業の機会が減っているそうです。このような、各地でイベントを盛り上げていた人たちが活躍できる場を提供したいという想いもあり、まちなか市と

して初めて、プロの大道芸人を呼んだり、各地のパン屋やキッチンカーを集めたりといった企画を盛り込みました。実行委員長の大塚康芳さんは、「今回のまちなか市では初めての取り組みが多かったことから、出店者や商店街、地域の方々の新しい出会いの機会につながりました。まちなか市は40回の開催を経て、地域に根付いた

イベントとなっています。これからも工夫を重ねながら、地域を盛り上げていきたいと思えます」とお話をくださいました。コロナ禍での苦勞を乗り越え、新しいつながりを生みながら今回のまちなか市の開催にこぎ着けたことが、これからのまちなか市や地域の新たな展開につながっていくのだらうと思いました。

## 子どもたちの絵で商店街を飾る みんなで描いたクリスマス

◆主催：多治見ながせ商店街振興組合

多治見ながせ商店街で、12月23日(木)から28日(火)までの6日間にわたり、「みんなで描いたクリスマス」が開催されました。商店街周辺にある保育園と、幼稚園の園児たちによって描かれた、クリスマスをテーマにした約280点の絵が、商店街の空き店舗を利用した会場に展示されました。

菓子を受け取れる引換券が渡されます。平日の夕方や週末には、絵を見たり、お菓子を受け取ったりする親子連れで、商店街が賑わったそうです。



▲展示会場

展示会場には、画用紙いっぱい、サンタクロースや、クリスマスツリー等、子どもたちが思い思いに描いたクリスマスの絵が並んでいました。来場した子どもたちが、展示してある自分の絵を見つけて、絵の前で嬉しそうに写真を撮っている姿がみられました。

「みんなで描いたクリスマス」は2000年に始まった企画で、商店街を訪れる人たちを増やしたいとの思いで続けられています。絵を提供してくれた子どもたちには、商店街の店舗でお



▲子どもたちが描いたクリスマスの絵

■ 多治見高校町づくりゼミによる「ながせぶらぶらりー」

「みんなで描いたクリスマス」の期間中の12月26日(日)、多治見高等学校(以下、「多治見高校」)の「町づくりゼミ」による、「ながせぶらぶらりー」が開催され、高校生が商店街の中の8つの店舗の店先に立ち、それぞれの店の商品を、POPを使って紹介しました。また、来場者がそれぞれの店舗にまつわるクイズに答えながらスタンプを集めると、景品を受け取ることができる、クイズスタンプラリーも同時開催されました。

多治見高校の町づくりゼミは、多治見市を盛り上げることを目的として活動しています。また、ながせぶらぶらりーは、町づくりゼミに携わ

る生徒たちが、商店街の課題や魅力を考える中で、初めて商店街を訪れた人たちに、気軽に店や商品のことを知ってもらい、店内に入ってもらうきっかけをつくりたいという思いが生まれて、発案された企画です。クイズスタンプラリーを通して、商店街を端から端まで歩くきっかけをつくるということも、狙いとしています。

## ■ 商店街と高校生が連携

ながせぶらぶらりーは「みんなで描いたクリスマス」の期間中に開催されたことから、絵を見に来た家族連れの多くが参加しました。そのため、約200人が来場する盛況のイベントとなりました。コロナ禍での開催でしたが、地域のイベントであることから気軽に来場できるとあって、例年よりも多くの人たちが訪れたそうです。「みんなで描いたクリスマス」では、絵を描いた園児にお菓子が渡され、ながせぶらぶらりーで

は、その兄弟や姉妹にもクイズスタンプラリーの景品が渡されました。商店街と高校生が連携することで、多くの子どもたちに喜んでもらえるイベントとなりました。

【取材・記事 中小企業診断士 中畑久美子】



▲店先で商品を紹介する多治見高校町づくりゼミの生徒

## ◆ 令和2年度第3次補正予算「がんばろう！商店街事業」

### 事業目的・概要

- 新型コロナウイルスの感染拡大により、甚大な影響を受けた地域産業において、将来の収益回復の見通しを持っていただくためにも、来街者の分散化等の感染拡大防止対策を徹底しつつ、地域を再活性化するための需要喚起策を実施することが必要です。
- 本事業は、イベント参加者の感染リスクを今まで以上に低減するため、「時期・時間・場所」の分散化に係る取組を重点的に支援するとともに、「ワクチン・検査パッケージ」の導入を支援し、更なる感染拡大防止対策を徹底しながら、ウィズコロナの状況に対応していくために商店街等が行うイベント事業、新たな商材開発やプロモーション制作などを支援します。
- 各地域で、消費者や生産者との接点を持つ「商店街」が、率先して「地元」の良さの発信や、地域社会の価値を見直すきっかけとなる取組を行い、地域の事業者が活気を取り戻すことを後押しし、商店街の活性化に繋がります。

### 「がんばろう！商店街事業」

※事業の開始時期については、感染状況等を踏まえ調整中。

#### (1)対象者

- 商店街等（中小小売業・サービス業のグループ等）

#### (2)事業内容

- 商店街イベント、プロモーション制作、新たな商材の開発等

#### (3)上限額

- イベント実施やWebサイト制作、商品開発等に係る費用について、1申請あたり、以下の上限額まで支援。

##### ①1者による単独申請

1申請あたり400万円上限（200万円まで定額支援）

##### ②2者連携による申請

1申請あたり800万円上限（300万円まで定額支援）

##### ③3者以上の連携による申請

1申請あたり1,050万円上限（500万円まで定額支援）

岐阜県商店街だよりは、岐阜県からの補助金を受けています。